



平成29年度卒業式 2018年3月4日

学校法人高知学園
高知リハビリテーション学院

学 院 報

学院報第27号

学校法人 高知学園
高知リハビリテーション学院

平成30年3月23日発行

発行

学院報編集委員会

〒781-1102
高知県土佐市高岡町乙1139-3
Tel 088-850-2311
Fax 088-850-2323
<http://www.kochi-reha.ac.jp/>
E-mail:kochi-reha@kochireha.ac.jp



これからのリハビリテーション
学院への抱負⑩

学院長 大倉 三洋

保護者の皆様には、ますますご清栄のことと拝察いたします。また平素は学院の教育・運営に関しまして、暖かいご支援、ご協力を賜り誠に有り難うございます。保護者の皆様にも少しでも学院のことが知っていただこうと始めました学院報も第二十七号の発刊を迎えることになりました。

平成二十九年度 高知リハビリテーション学院の卒業式が三月四日、吉良正人（学校法人高知学園理事長）理事長出席のもと、土佐市市長 板原 啓文様をはじめ日頃より本学院に深いご理解とお力添えを賜っております関係各位の団体や施設から多くの皆様方のご臨席を賜り、理学療法学科 第四十八期生六十四名、作業療法学科 第二十二期生三十二名、言語療法学科 第十八期生二十九名、合計百二十五名の皆さんを送り出すことができましたことを大変うれしく思います。また卒業生の皆さんをこれまで見守り支えてこられました保護者の皆様にも教職員一同心よりお祝いを申しあげます。

卒業式の告辞で述べましたように、皆さんが巣立ちゆく現在の、わが国では益々、少子高齢化と人口減少が進み、医療、保健、福祉を取り巻く環境も大きく変化をきてきております。これまでの病院や診療所での医療、福祉施設での介護に加え、高齢者の在宅医療、在宅介護、生活習慣病を中心とした疾病予防や介護

予防、また地域包括ケアシステムへの対応など、リハビリテーション（医療）に対する有用性と多様化が進んできており、今後益々重要な役割を果たすことになると思います。卒業生の皆さんには、それぞれの専門性とは何か、そして今、自分がしなければならぬことは何かということを、しっかりと見据え、その場その場で最善を尽くすこと、実社会での学習の積み重ねが、やがて皆さんの血肉となり自信となることでしょう。これから味わうであろう数々の挫折を乗り越え、頑張ってくださいと思います。そして、卒業生の皆さんが、社会で活躍され学んだ成果を是非本学院に還元し、後輩の教育・指導にも力を貸して戴くようにとお願いをいたしました。また、「高知リハビリテーション専門職大学（仮称）」の方も高知リハビリテーション学院を母体に、これまでの実績等を踏まえ、実践的かつ創造的な教育研究により、保健・医療・福祉分野における高度な知識と技術、豊かな人間性と強い倫理観を備えた人材を育成し、地域社会の発展と国民の健康に貢献していく専門職大学として設置申請を行うことが、十一月の法人理事会で決議され、十一月三十日に文部科学省に申請をいたしました。現在審査を受けているところです。教職員一丸となって取り組んでおりますので、今後ともご支援下さいますようよろしくお願いいたします。

人間総合科学大学 卒業報告

人間総合科学大学指導連絡会 委員長 中野 良哉

高知リハビリテーション学院では、卒業後に医療の場において高い教養と幅広い知識が必ずや役立つとの考えに基づき、昭和62年度から併修制度を取り入れました。併修制度とは、本学院で学ぶと同時に大学で学び学士の資格を取得する制度です。平成12年度からは人間総合科学大学と併修提携を結びました。学生はこの併修制度を利用し、「こころ」「からだ」「文化」の3つの領域を中心に学んでいます。平成29年度高知リハビリテーション学院卒業生のうち、19名が人間総合科学大学人間科学部心身健康科学科を平成30年3月4日に卒業しました。入学時の学科名は人間科学科でしたが、学科名の名称変更に伴い、卒業時は心身健康科学科となりました。併修制度を通して得た高度な知識や豊かな人間性、4年間にわたり学院と併修大学の学業を両立させ、最後まで学びの姿勢を崩さなかった粘り強さを医療・福祉の実践場面で十分に発揮し、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士として活躍されるよう期待しています。

平成29年度 会長表彰者

- 職業教育・キャリア教育財団 表彰者
 - 言語療法学科 西森 有紗
 - 作業療法学科 伊藤 爽
 - 理学療法学科 黒川 世準
- 全国リハビリテーション学校協会 優秀賞
 - 理学療法学科 鬼頭 正一
 - 言語療法学科 西岡 映美
 - 作業療法学科 石本 郁美
- 日本理学療法士協会 学業優秀賞
 - 山本 晃昌
- 日本作業療法士協会 優秀学生賞
 - 井上 真菜美
- 日本言語聴覚士協会 会長賞
 - 川口 美春
- 学院長表彰
 - 作業療法学科 澤田 将志
 - 理学療法学科 住江 晃一 前田 隼佑
 - 言語療法学科 岡 星太

学生生活を振り返って

この学院での生活はあっという間に過ぎていったと感じています。四年間を振り返ると、よきこい祭りや学院祭を通じて多くの友人ができたことやクラスの仲間と団結し一つのことを成し遂げる大切さを学び多くの楽しい思い出ができました。臨床実習や国家試験勉強においては苦労する時や辛い時もありましたが家族や先生からの励まし、何より共に困難を乗り越えてきた同期の仲間達の支えがあったからこそ自分自身も辛いことを乗り



理学療法学科

住江 晃一

振り返ると四年間の学生生活は、勉強や実習など大変なことも多くありましたが、それ以上に、仲間と共に過ごす時間が楽しく充実した日々を送ることができました。一年次は、専門的な授業が多く不安や戸惑いを感じました。しかし、仲間や先生方、先輩方からアドバイスを頂き自分に合った学習方法を身につけることができました。時に、悩み疲れた時は、友人と他愛のない話で笑い合う



作業療法学科

横田 梨紗

四年間を振り返ると、不安なこと、大変なことも多くありましたが、それ以上に楽しい学生生活でした。入学当初は、周りには知らない人ばかりで、勉強よりも友達ができるかどうかの不安が大きかったことを今でも覚えています。しかし、その不安がすぐに無くなり、テストや国家試験にむけ切磋琢磨しあえるクラスメイトと四年間を過ごせた事を幸せに思います。臨床実習では自分の力量ではまだまだ難しいことばかりでしたが、実習



言語療法学科

二宮 瑞稀

越えることができました。四年間を通じて先生方や先輩・後輩、実習先の先生方や患者さんとの出会いがあり、人との繋がりを通じて自分自身大きく成長することができたと思います。また、家族の支えにも本当に感謝しています。本当にありがとうございました。卒業後は高知リハで学んだ知識はもろろんのこと、人との繋がりを大切にしていきたい、たくさんの人を笑顔にでき信頼される理学療法士になれるように努力を続けていきたいと思っています。

ことで疲れが吹っ飛びました。一、二年次は、勉強や行事等で多くの人と関わることで臨床実習の準備となっていたように思います。そして、三、四年次の臨床実習、集大成の国家試験勉強を仲間と励まし合いながら、努力を重ねることで絆を深めることができました。このような、貴重な四年間を過ごすことができたのは、家族、先生方、仲間からの支えがあったからです。感謝の気持ちでいっぱいです。この学院で教わったことを生かし多くの人に笑顔を与えられるセラピストになりたいです。

先の先生から暖かいご指導を受け、実習後の自分には少し成長できたように感じます。また、「こんな言語聴覚士になりたい」と自分の中で理想像も強くなり、国家試験勉強にもより一層力を入れることができました。四月からはそれぞれの場所です。今まで支えてきてくれた皆と離れ、大変なことも多いと思いますが、学院での経験を糧に頑張ります。ご指導して頂いた先生方、四年間応援してくれた家族に、心から感謝申し上げます。

卒業にあたり

言語療法学科 補導主任 吉村知佐子

学生は、卒業まで非常勤講師として全国で活躍されている先生方に、臨床実習では多くの施設で指導者にご指導いただき、感謝いたします。そして、ご家族の応援なしに学生生活は送れません。十八期生の保護者会個別相談の参加率は四年間トップです。ご家族の学校運営に対するご理解・ご協力にお礼申し上げます。十八期生の担任をして感じたことは、元氣、個性豊かですが、他力本

作業療法学科 補導主任 大塚 貴英

三月四日に、作業療法学科第二期生三十二名が、無事卒業を迎えました。四年前は、高校を卒業したばかりで、少し幼さを感じるところもあり、「指示されたことだけをまじめにこなしている」という印象でした。しかし、二年・三年と進級するにつれ、クラスの中で話し合い、考えて行動できるようになってきたと思います。特に、三年時の学院祭や四年時

理学療法学科 補導主任 稲岡 忠勝

理学療法学科四十七期生も、とうとう卒業となりました。それぞれがとても個性が強い生徒が多く、とてもくる：楽しい四年間を過ごすことができました。振り返ると一年次より学院、多学科的の先生方、近隣の住民の方々、たくさんの方に迷惑をかけ、また支えて頂いた印象が非常に強くあります。ただ、個性が強い生徒が多いからか、何事も真剣に取り組み始める

願などころがあります。そんな十八期生には、協調性を養い、相手の立場になって考え行動のできる社会人になってほしいです。また、勉強を怠らず、自己研鑽に励み、高い教養を身につけ、患者さんからもスタッフからも慕われる言語聴覚士に思いは膨らみます。十八期生、教室に行ったらまた会える気がします。魅力ある言語聴覚士になってください。これからもずっと高知リハ学院言語療法学科の十八期生の仲間です。

の臨床実習では、それぞれの考えや個性を生かしながら、自主性のある行動ができたのではないかと思います。作業療法士には、チームの中で意見を出し、他職種と協業しつつ、対象者へ積極的に関わることが求められます。学院で学んだ、「チームワーク」と「自主性」を忘れず、これからもがんばって欲しいと思います。最後になりましたが、これまで絶えず気遣いながら支えてくださった、ご家族を始めとする周囲の方々、心より感謝申し上げます。

と非常に高い能力を発揮することをよく経験しました。今後は仕事というものに真剣に向き合わないといけない環境になります。真の能力を多くの場面で発揮してくれると信じてやみません。言いたいことはまだまだ多いですが、あとは持ち前のバイタリティーでたくさんのご経験を、乗り越えていってくださることを強く希望します。最後に。良い経験をたくさんさせて頂きました。今後の糧になりました。

と非常に高い能力を発揮することをよく経験しました。今後は仕事というものに真剣に向き合わないといけない環境になります。真の能力を多くの場面で発揮してくれると信じてやみません。言いたいことはまだまだ多いですが、あとは持ち前のバイタリティーでたくさんのご経験を、乗り越えていってくださることを強く希望します。最後に。良い経験をたくさんさせて頂きました。今後の糧になりました。

全国で活躍する卒業生シリーズ ②⑥



『あなたは主役？準主役？それとも黒子（衣）？』

もりもと整形外科・内科
理学療法学科 第10期生 山田 義久

テレビ画面を通じて、選手の一挙手一投足に感心し、興奮あるいは落胆しながら、元氣・勇気をもらった平昌冬季オリンピックは過去最高のメダルを獲得して閉幕した。そして、本稿を推敲している間にも平昌パラリンピックの開幕が迫っており、更に今後はサッカーW杯、ラグビーW杯、二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックとスポーツ界の大イベントが開催される。プロフェッショナル・アマチュアスポーツ界を問わず、マスメディアに取り上げられ華やかな世界に映る。そして、このような世界に身を委ねる選手あるいはチームが存在する。私達が関わるアスレティックリハビリテーション領域も然りである。さて、新入生・在校生の皆さんの中には、このようなスポーツの世界との関わりに興味を持って本学院へ入学された方も多と思う。斯くいう私もその一人であった。恥ずかしながら、当時の私は皆さんのように明確なセラピスト像を持ち合わせておらず、更にリハビリって何？理学療法士って何？という時代であった。現在、整形外科クリニック勤務の傍ら、本学院学院長大倉三洋先生のお取り計らいによってスポーツの現場で「主役は選手・チーム、サポートスタッフは黒子」をモットーに本学院非常勤講師の立場で活動している。時には、選手の間・故障（専門的には外傷・障害II傷害という）後の競技復帰の際の美談として脚光を浴びて、メディアカルサポートチームがマスコミに持て囃されることがあるかもしれないが（マスコミリリスの多くにより、辛く・苦しいリハビリに耐えてなどネガティブなイメージが作り上げられているのは如何かと、またリハビリテーションの使用方法にも個人的には閉口している）、やはり黒子に徹することもプロフェッショナルとしてあるべき姿と考えている。翻って、卒業後多くの皆さんが携わる医療現場で、いわゆるリハビリテーションチームの中では私達セラピストも主役を演じることがあるかもしれないが、やはり主役は患者さんであるということをお忘れないうで欲しい。セラピストとして純白の衣に包まれた皆さんが、将来に亘りどの様な色の役割を演じていくのが楽しみである。セラピストとしての終活期に入り、一竿風月の生活を目前にした卒業生の戯言をご容赦頂きたい。

))) 教 員 紹 介 (((



言語療法学科
吉村知佐子

私は、言語聴覚士として、患者さんの「できた」という表情を見た時、この仕事の魅力を感じます。できない理由は、人それぞれであり、その理由を追究し、患

者さんの小さな変化に気づき、その変化に対応するためには、知識とセンスが必須です。

学院では、授業はもちろん、行事やボランティア活動など多くのことに関心をもち、学び、アンテナを張り巡らせて、色々なことを共に経験することを大切にしています。私は、入学さ

れる学生が四年間でクラスが一丸となって、魅力ある言語聴覚士になれるよう学生の「できた」の喜びを共に感じていきたいと思っております。

今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。



作業療法学科
有光 一樹

私は本学院作業療法学科を卒業し、教員になって七年目になります。一年次生の機能解剖学や健康科学などの基礎医学、三年次生

の中樞神経授業の専門分野に関わる授業を担当しています。どうすればよりよい理解に繋がるのか、どうすれば主体的な学習に繋がるか考え、学生達の学びの一助になるよう努めています。教鞭を執る傍ら、国の施策でもある地域包括ケアシステムに貢献できるように

土佐市の総合事業に携わり、作業療法士として助言を行っています。社会情勢が変化していく中、病院だけでなく地域で活躍できる作業療法士が必要であることを、学生達にも理解していただき、この仕事の魅力を伝えていきたいと思いま



理学療法学科
稲岡 忠勝

新入生のみならず、ご家族の皆様、ご入学おめでとうございます。

平成三十年年度、理学療学科一年次生の担任をさせ

て頂くことになりました、稲岡と申します。今後は今までと学習する内容や生活習慣など多くの変化があり、戸惑うことも多々あるかと思えます。しかし、一年次生では入学してすぐからクラス内、学院内で交流できるイベントが目白押しです。このような機会を活

かして同級生や先輩と親睦を深め、学習はもちろん、趣味なども大いに満喫して頂きたいと思えます。皆様が目標とするセラピストに無事なれますよう、職員も微力ながら応援させていただきますので、どうぞ相談はお気軽にお越し下さい。

就職ガイダンスの報告及び就職状況

就職指導委員会 委員長 平賀 康嗣

臨床実習を終えた四年次生は、十月から十二月を中心に国家試験勉強に取り組み中、就職合同説明会への参加、就職マナー講習、病院訪問、履歴書の作成等、就職活動に励みます。

平成二十九年度就職合同説明会では六十七施設百二十三名と多くの採用担当者にご参加いただき、熱気あふれる就職説明会となりました。当日は、高知会館にて行い、学生達は事業内容等説明を受け、具体的な雇用条件や職場環境などについて真剣に聴き入っていました。

また、県内外の採用担当者の方からも楽しく、わかりやすく説明していただき、会場では真剣な中にも和やかな雰囲気漂い、これから就職先を考える学生にとって、今後の活動の第一歩となる良い機会となりました。

就職先は下記のとおりです。

いずみの病院・愛宕病院・南国中央病院・細木病院・社会医療法人 近森会・内田グループ・永井病院・白菊園病院・川田整形外科・前田病院・竹本病院・筒井病院・大井田病院・JR東京総合病院・初台リハビリテーション病院・東船橋病院・セコムメディック病院・山梨勤労者医療協会・平成横浜病院・千里中央病院・京都大原記念病院・倉敷平成病院・伊予病院 他多数

平成29年度 クラブ一覧表

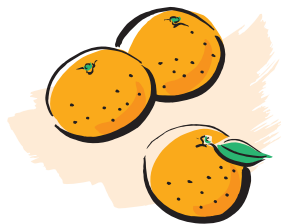
	クラブ名
1	野球部
2	フットサル部
3	バレーボール部
4	バスケットボール部
5	バドミントン部
6	剣道部
7	吹奏楽部
8	軽音楽部
9	ダンス部
10	スケートボード部
11	ツーリング部
12	ハンドボール部
13	柔道同好会

地域貢献

みかん狩りに参加して

作業療法学科1年 田中 智子

香我美町山北でみかんを育て、東日本大震災で被害を受けた方達にみかんを届けている中村さんのもとを訪ねて、みかん狩りのお手伝いをさせていただきました。中村さんが用意してくれた温かいお昼ご飯を頂いていたときに、東北の方から届いた感謝の手紙を見せただき、私達が狩ったみかんも東北の方の力になると思うと、幸せな気持ちになりました。中村さんの温かい人柄に触れ、来年も機会があれば、是非参加させていただきたいと思いました。



ク ラ ブ 紹 介

【剣道部】



【吹奏楽部】

吹奏楽部ボランティア演奏 土佐市宇佐サービスセンター龍宮にて利用者さんと一緒に歌ったり、曲名あてクイズをしたり、踊ったりして楽しいひとときを過ごしました。



高知リハビリテーション専門職大学(仮称) 平成31年4月開設予定 設置認可申請中



高知リハビリテーション専門職大学(仮称) 設置認可申請中

本年、高知リハビリテーション学院は開学五十周年を迎えます。

この大きな節目を期に、高知県で唯一の四年制私立大学『高知リハビリテーション専門職大学(仮称)』として飛躍すべく、文部科学省に設置認可を申請中です。目指すのは平成三十一年四月の開設です。四国初の理学療法専攻・作業療法専攻・言語聴覚専攻三専攻が揃った大学となります。

現在の専門学校とは平成三十一年度から三十三年度の間、並行した形で授業などを行っていくこととなりますが、専門学校では現教員が引き続き教育にあたっていきますので、教科や実習などはこれまで通りとなります。

平成30年度 前期行事予定

4月4日	入学式
4月5・6日	オリエンテーション 健康診断
9日	前期授業開始
27日	レクリエーション
8月1～8日	前期定期試験
8月9日～9月14日	夏期休業
8月10・11日	よさこい祭参加
8月18日	土佐市大綱祭り参加

土佐市就学奨励費について(給付型)

土佐市在住(土佐市の賃貸宿舍の居住者も含みます)の本学院の学生に対して、前期・後期それぞれ3万円の就学奨励費が交付されます。説明会(6月予定)を開きますので、該当する学生は忘れずに出席してください。

土佐市人づくり奨学生(給付型)

土佐市では土佐市出身(保護者が土佐市在住)の学生を対象にした土佐市人づくり奨学生(給付型)制度が設けられています。

月額1万円の奨学金が給付される制度です。(特別な場合除き、給付された奨学金は返還する必要はありません。)詳しくは事務室まで。

スクールバスの運行について

授業の開始(終了)時間に合わせて、JRいの駅⇔天王ニュータウン⇔学院間を1日6往復、スクールバスを運行(無料)しています。いの駅発の第1便は8時10分発です。運行ダイヤルは学内の各階掲示板やホームページに掲載しています。また、学院祭などの行事の際には、臨時便も運行しています。

土佐市ドラゴンバスについて

土佐市が運行するドラゴンバスが本学院⇔いの駅間を1日2往復(4便)運行しています。

本学院の学生が利用する場合は、事務室で乗車券を受け取って下さい。

運賃が無料になります。

